

キャリア教育授業の内製化への取り組み — 平成 26 年度「自立と体験 4」授業実践より —

南

愛^{*}

1. はじめに

明星大学では、1 年次前期の「自立と体験 1」から 3 年次前期の「自立と体験 4」までを「体系的キャリア教育プログラム」と位置付けて継続的に学べるように授業を設置している。「自立と体験 4」は、「就職力を身につける」ことを目的に平成 24 年 4 月より開講され、今年で 3 年目を迎える。当初、具体的な授業内容や教材の作成、運営方法については、明星教育センターを中心に、外部のキャリア教育専門業者（以下委託業者）と提携して進めてきたが、平成 26 年度より明星教育センターで授業設計から運営まで全て内製化を図った。

本稿では、「自立と体験 4」の内製化の経緯や授業の特色、運営方法を中心に報告する。

2. 授業の概要

「自立と体験 4」は、3 年次前期の自由科目として、学部学科横断の少人数クラスで実施されている。授業の進め方は、協同学習や体験学習を中心としている。「自立と体験 4」では、2 年次後期の「自立と体験 3」で学ぶ社会人基礎力をベースに「自分」「社会」「仕事」という 3 つの観点で視野を広げ、グループ演習やグループディスカッション、プレゼンテーションを通して就職活動の前提となる意識とスキルを身につけていくことを目指している。

平成 26 年度は、明星教育センター特任・常勤教員 4 名、兼任講師 1 名、委託業者派遣講師 3 名の計 8 名が 10 クラスを担当した。

具体的な授業内容は、以下のとおりである。

回	授業名	内容	主な演習
1	オリエンテーション	授業全体の概要・取り組み方	自己表現を体験する・目標設定
2	社会への関心 1	社会に関心を持つ	社会をイメージしてみる意見をまとめて論理的に話し合う
3	組織における仕事	仕事におけるチームワークを理解する	チーム活動演習
4	自己理解 1	自分の価値観や行動の元を知る	ライフラインチャートライフタイムバリューカード
5	仕事理解 1	社会人から学ぶ	仕事のやりがいを考える社会人ビデオを観て話し合う
6	ジョブインタビュー 1	インタビューの方法を理解する	ジョブインタビューの事前学習

^{*} 明星教育センター 特任講師

7	仕事理解 2	企業の中での仕事の流れを理解する	仕事の流れや仕事内容を考える外部企業との関わりを考える
8	仕事理解 3	社会で求められる人材を理解する	仕事と自分を考える求める人物像を考える
9	ジョブインタビュー 2	プレゼンテーションを考える	今までの学びを振り返るプレゼンテーションの準備
10	ジョブインタビュー 3	社会人のやりがいを探る	個人プレゼンテーショングループプレゼンテーション
11	社会への関心 2	社会を構成する業界・職種を知る	ジョブインタビューから仕事を考えるやりがいと仕事を結びつける
12	社会への関心 3	社会人の考え方を知る	グループディスカッションキャリアセンター職員の話聞く
13	自己理解 2	自分の持ち味を考える	ストレングスカードワーク模擬面接
14	自己表現	行動計画をたてる	キャリアデザインを考える
15	総まとめ	「働く」について考える	アクションプランを考える

3. 内製化の経緯

平成 24 年度は、構想時点から実施まで 1 年未満という短期間ということもあり、「自立と体験 4」の具体的な授業内容、教材の作成、方法などについては、明星教育センターを中心に、委託業者と提携して進めてきた。平成 25 年度も同様に連携して、前年度の見直しを受けて教材・教案の改善を行った。しかし、課題として明星教育センター教員と委託業者の派遣講師では授業対応に違いがあったことが、平成 24 年度、平成 25 年度「自立と体験 4」実施報告書にそれぞれ記されている。

例えば、明星教育センターの教員は学科の特性を考慮したり、参加学生の様子を見て随時授業内容をアレンジしたりし、特に学生が考える時間を多めに取るというような措置をした。しかし、委託業者の派遣講師は、教材をこなす中で学ぶということを意識していた。そうした課題も含め、より明星大学独自のキャリア教育プログラムの構築を目指すため、「自立と体験 4」を平成 26 年度から授業設計から運営までの全てを内製化することになった。

4. 授業内容の特徴および運営について

内製化を行ったことにより、以下の特色を取り入れながら進めていった。

1) 到達目標

「自立と体験 4」の具体的な到達目標として以下の 2 点を設定した。

- ・社会に出て働くイメージが持てること
- ・学生の主体的行動力が身につくこと

2) 授業内容の特徴について

- ①自分で目標設定し達成していくプロセスを習慣づける取り組み

毎回、授業の導入時に学生が「具体的な取組目標」を考えてから演習をスタートした。その日の授業内容を聞いて、個人の取り組み目標を具体的な行動レベルで「個人目標達成一覧表」に記入をしていくものである。取組目標については、自分で考えたもの以外に明星教育センターが独自に作成した社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）を参考にしている。また、授業の終了時に取組目標の「達成度」をパーセンテージで記入し、なぜその数字になったのか、「達成できたこと」「次回への課題」を具体的に記入させ、達成度が100%になったら新しい目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいく。このように自分で目標設定し、達成していくというプロセスを第1回から15回の授業の中で行い習慣づけていった。

②「自立と体験3」から「自立と体験4」への継続的な学び

今回、2年後期の「自立と体験3」で学んだことが、3年次前期の「自立と体験4」でも継続して学べるように授業の進め方を改善した。「論理的に話す」「プレゼンテーションの基本」など「自立と体験3」で学んだ表現技法の演習が繰り返し「自立と体験4」の中でも同じ教材シートを用いて授業を行う流れになっている。そのため「自立と体験3」から継続して「自立と体験4」を履修する学生は復習することで学びを積み重ねることができる。また、「自立と体験3」を履修せずに「自立と体験4」を学ぶ学生にも基本的な表現技法を学ぶ機会となっている。

③自ら考え計画し行動する力の醸成

授業プログラムの骨子として新たに導入したのが、「ジョブインタビュー」である。ねらいは、「働く自分を考える機会を得ること」と「自分で計画を立て主体的に行動すること」である。ジョブインタビューは、第6回「インタビューの方法を理解する」、第9回「プレゼンテーションを考える」、第10回「社会人のやりがいを探る」の計3回で構成されており、第9回の授業までに学生が社会人にインタビューを行うことが取り組むべき課題として課されている。自分でインタビューの相手を探したり、アポイントを取りインタビューを実践するというプロセスを通して主体的に行動する体験をし、自ら考え計画し行動する力の醸成を図った。

3) 運営について

①教員間の定期ミーティングの実施

明星教育センターの教員がスーパーバイザーとなり、兼任講師、委託業者派遣講師と授業の内容説明や進め方の確認のため毎週定期ミーティングを実施した。これによってスムーズな授業進行が可能となった。

②キャリアセンターとの連携

「自立と体験4」の授業終了後、あるいはそれと並行する形で、3年次からスムーズにキャリアセンターへ接続できるように明星教育センター教員とキャリアセンター職員とで月1回のミーティングを実施し、情報共有を行った。主な連携については以下のとおりである。

- ・授業内で、キャリアセンター主催の行事（インターンシップ等）の告知。
- ・授業教材にキャリアセンターで配布するキャリアサポートブックを活用。
- ・キャリアセンター職員が一部の講義（第12回社会人の考えを知る）を担当。

このことから、実践に即した要素を取り込めた。また、学生がキャリアセンターのサポート体制を知る機会となった。

5. まとめ

内製化を行ったことで、平成 26 年度の「自立と体験 4」の授業は、より明星大学の学生に合わせた授業プログラムを展開することができた。学生に行った授業後のアンケートからも昨年度と比べて、1 項目を除きすべての項目の評価が上がっていた。この結果から、受講した学生は授業内容を評価しており、今回の授業改善の結果が少なからず出ていると考えられる。

また、前年度の課題であった明星教育センター教員と委託業者の派遣講師の授業対応への違いについても内製化を行うことで改善された面があると感じている。具体的には、授業プログラムの中で学生が体験から学び、振り返って考える時間を前年度よりも多く設けたことと定期ミーティングで各クラスの様子を共有し、必要に応じて授業内容をアレンジすることを検討する場として活用することができたからである。

来年度より明星教育センターの教員が「自立と体験 4」の全てのクラスを担当することになる。就職活動に向けて、学生が自ら得た情報をもとに、主体的に行動に移せるよう、キャリアセンターとの連携を強化しながら、より一層、明星大学の学生の現状に添った授業プログラムの改善や運営に取り組んでいきたい。

参考文献

「明星 — 明星大学明星教育センター研究紀要」第 3 号（平成 25 年 3 月 31 日）

「明星 — 明星大学明星教育センター研究紀要」第 4 号（平成 26 年 3 月 31 日）